



「外為短期投資家動向調査」結果

<第87回調査>

2016年08月29日

【本調査の目的】

2009年6月の第1回調査を皮切りに、(株)外為どっとコムは口座開設者のお客様を対象として、「投資動向等に関するアンケート調査」を毎月定期的を実施しておりましたが、2010年8月の第15回調査より、その名称を「外為短期投資動向調査(略称:外為短観)」に改めました。本レポートは、同調査の結果に基づき、(株)外為どっとコム総合研究所がその一部を取りまとめるという形で対外的に公表するものです。

近年の外国為替市場において、本邦の外国為替保証金取引への関心が強まっているのは周知の通りですが、その実像を把握するのに必要な統計データ等の整備は、既存のマクロ経済データや金融関連データなどに比べて遅れているのが実情です。今後こうした調査を継続的に実施することで、時系列で比較した個人投資家層の相場感の変化や投資家属性別の投資動向の特徴などを精査し、当社の調査研究活動の深化につなげるとともに、その一部を社会に還元することが、本調査の目的です。

また、本調査におきましては、国内外の市場参加者が注目する各種イベント前後の時期に、不定期のアンケート調査の結果も公表いたします。定点観測の調査結果と合わせて、ご参考にして頂ければ幸いです。

【調査実施期間】

2016年08月16日(火)13:00~2016年08月23日(火)13:00
※毎月中旬から下旬にかけての1週間を調査期間としています。

【調査対象】

(株)外為どっとコムの『外貨ネクストネオ』に口座を開設のお客様層

【調査方法】

(株)外為どっとコムの口座開設者にメールでアンケート回答URLを送付。
今回の有効回答数は831件。
※必要項目を全て入力して回答して頂いたお客様を「有効回答数」としました。

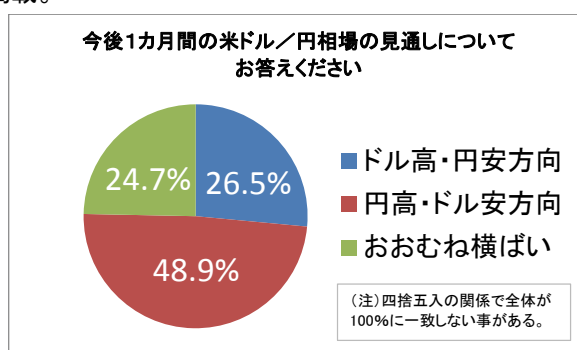
本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2016 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

【第87回調査結果略報：円高警戒感が強い】

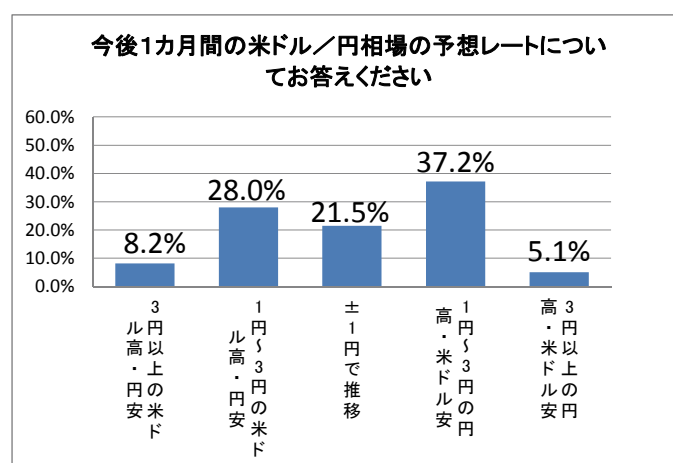
問1：今後1か月の米ドル/円相場の見通しについてお答えください

「今後1か月の米ドル/円相場の見通し」については、「ドル高・円安方向」と答えた割合が26.5%であったのに対し「円高・ドル安方向」と答えた割合は48.9%であった。この結果「米ドル/円予想DI」は▲22.4%ポイントとなり、前回のドル高・円安見通しから一転、再び円高・ドル安見通しが優勢となった。調査期間中の米ドル/円相場は16日に101円台から99.50円台まで急落したが、その後は100円ちょうど前後から101円ちょうど前後でのみ合いとなった。夏季休暇入りする市場参加者が多く相場が薄い中で円の買い仕掛けが入ってドル/円は急落したものの、その後は26日に行われるイエレンFRB議長のジャクソンホールでの講演まで手控える動きが強かった。ただし、米国の利上げは年内1回できるかできないかという見方が強く、また日銀の追加緩和も不透明感が強い中だった事から、FX投資家のドル/円の見通しは下値警戒感が強く表れた模様。※過去の米ドル円予想DIの推移はP7-8に掲載。



問2：今後1か月の米ドル/円相場の予想レートについてお答えください

「今後1か月の米ドル/円相場の予想レート」については、「1円～3円の円高・米ドル安」が37.2%と最も多く、「1円～3円の米ドル高・円安」が28.0%と続いた。さらに「±1円で推移」が21.5%と続き、「3円以上の米ドル高・円安」は8.2%、「3円以上の円高・米ドル安」が5.1%に留まった。ヒストグラムの形状は円高・米ドル安方向に傾いた。また、前月に比べて3円以上の変動を予想するFX投資家は減少しており、大幅な値動きを予想するFX投資家は減少した様子が見受けられる。

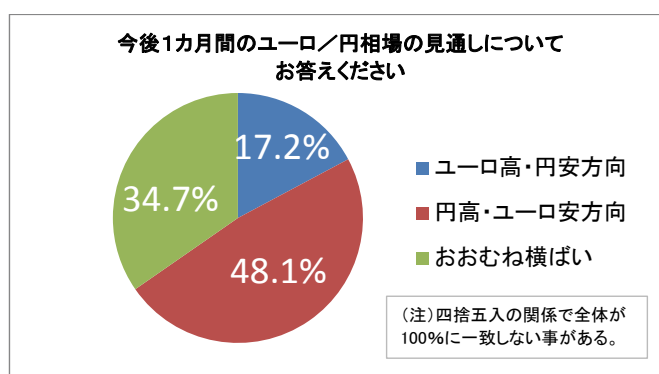


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様が生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2016 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

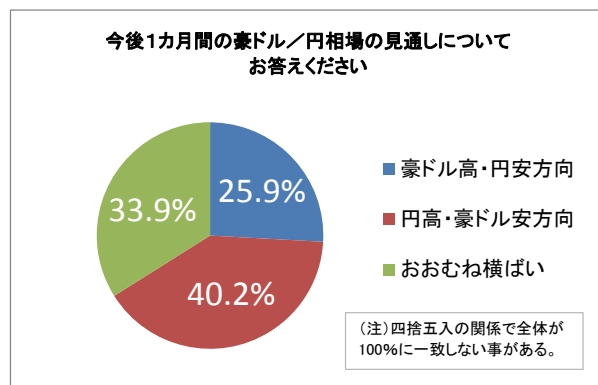
問3: 今後1か月間のユーロ/円相場の見通しについてお答えください

「今後1か月間のユーロ/円相場の見通し」については、「ユーロ高・円安方向」と答えた割合が17.2%であったのに対し、「円高・ユーロ安方向」と答えた割合が48.1%であった。この結果、「ユーロ/円予想DI」は▼30.9%ポイントと、前回調査(▼12.6%ポイント)からマイナス幅を拡大、12カ月連続のマイナスDIとなった。調査期間中のユーロ/円相場は、112円台から114円目前までの揉み合いだったが、下値は切り上げ傾向だった。それでもFX投資家の見方がユーロ弱気・円強気に傾いたのは、引き続きユーロ圏が英国の欧州連合(EU)離脱の悪影響(経済的にも政治的にも)を受ける事を警戒している点や、113円台後半で頭を押さえられている状態が半月ほど続いている事、日銀の追加緩和への期待が高まらず、円高進行への警戒感が強い事などが挙げられる。※過去のユーロ円予想DIの推移はP7-8に掲載。



問4: 今後1か月間の豪ドル/円相場の見通しについてお答えください

「今後1か月間の豪ドル/円相場の見通し」については、「豪ドル高・円安方向」と答えた割合が25.9%であったのに対し、「円高・豪ドル安方向」と答えた割合は40.2%であった。この結果「豪ドル/円予想DI」は▼14.3%ポイントとなり、前回の上昇予想(+14.4%ポイント)から、下落予想に転じた。調査期間中の豪ドル/円相場は、豪中銀(RBA)の理事会議事録で近い将来の追加緩和を匂わす表現がなかった事、豪7月雇用統計が好結果だった事が豪ドル買い要因になる場面が見られたが、買いは続かなかった。豪州内の材料が必ずしも豪ドル売り要因にならない状態にも関わらず冴えない値動きだった事から、FX投資家の見通しも豪ドル弱気なものにシフトした可能性がある。※過去の豪ドル円予想DIの推移はP7-8に掲載。

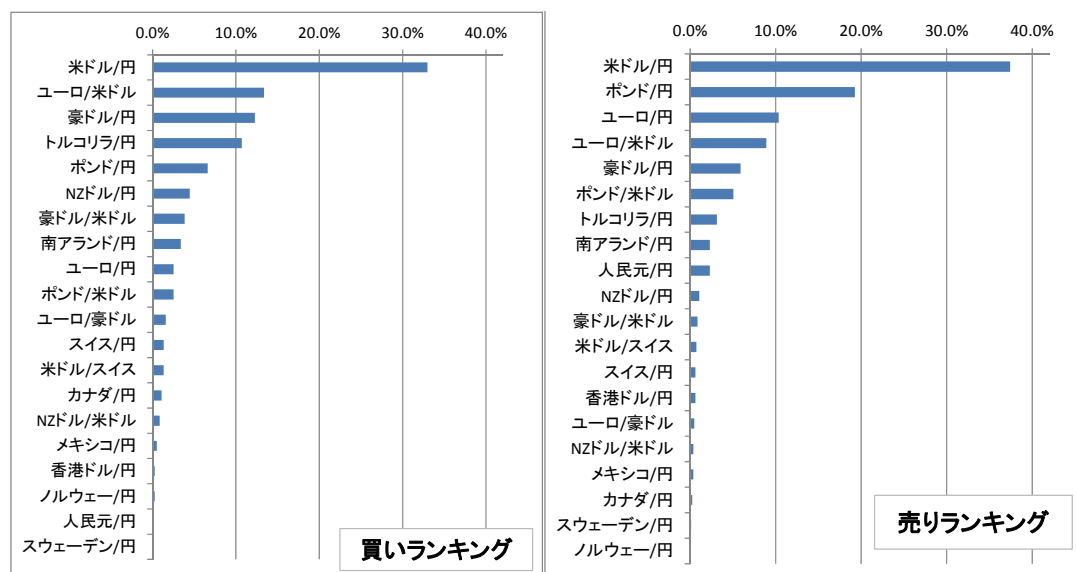


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2016 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

問5: 今後、注目の通貨ペアについてお答えください

「今後注目している通貨ペア」について尋ねたところ、「買い」で注目の通貨ペアは、米ドル/円が33.0%の回答割合を集めて47カ月連続で1位。以下、2位にユーロ/ドル(13.4%)、3位に豪ドル/円(12.3%)、4位トルコリラ/円(10.7%)、5位ポンド/円(6.6%)と続いた。一方、「売り」で注目の通貨ペアは、1位が米ドル/円(37.4%)、2位ポンド/円(19.3%)、3位ユーロ/円(10.3%)、4位ユーロ/ドル(8.9%)、5位豪ドル/円(5.9%)となった。買いで注目された通貨の第2位となったユーロ/ドルは、前月の第7位からの躍進となった。Brexitによるユーロ圏経済への悪影響を気にするFX投資家は多く、ユーロ/円への買いへの注目度は低い(第9位)ままだが、Brexit決定直後のユーロ売りには一服感が出た上、米国の利上げについて、年内1回できるかどうかという見方が根強い中でドル売りが出た事により、調査期間中のユーロ/ドルは大きく上昇した。この点を鑑みて、関心が集まったものと見る。一方、トルコリラ/円は前々月(第2位)、前月(第3位)から、FX投資家の注目度の低下が目立つ。7月に発生したクーデターはすぐに制圧されたものの、国内情勢に対する不安が強い事から、買いでの注目度が低下傾向にある模様だ。一方、売りで注目の通貨ペアの第1位には米ドル/円が復帰した。調査期間中に99.50円台まで一時急落し、その後も戻りが限られている様子から、売りでの注目度が高まったようだ。第2位のポンド/円は前月の第1位から順位を下げた形になったが、Brexitを受けた英国経済下振れ懸念や英中銀の追加緩和観測などが引き続き意識されていると見られる。

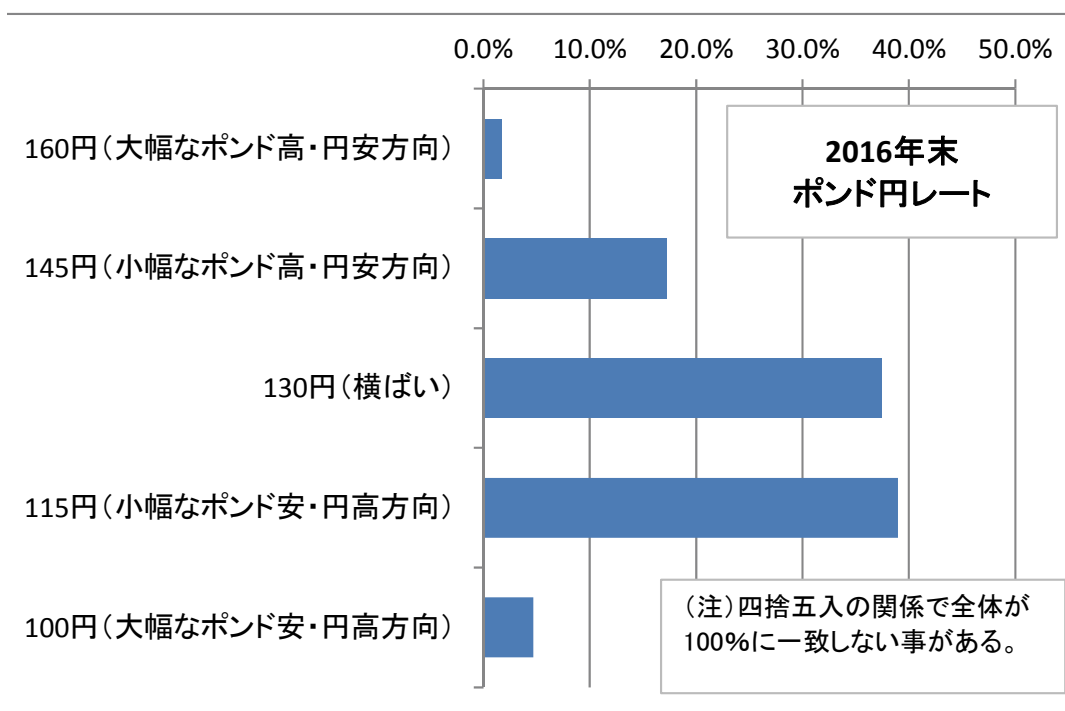


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2016 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

問6：2016年12月31日ニューヨーククローズ時点の、ポンド/円の予想レートをお答えください(ひとつだけ)

今回の特別質問として、「2016年12月31日ニューヨーククローズ時点の、ポンド/円の予想レートをお答えください(ひとつだけ)」と尋ねたところ、「115円(小幅なポンド安・円高方向)」との回答が39.0%と最も多く、次に「130円(横ばい)」が37.4%と迫った。以下、「145円(小幅なポンド高・円安方向)」が17.2%、「100円(大幅なポンド安・円高方向)」が4.7%、「160円(大幅なポンド高・円安方向)」が1.7%と続いた。「ポンド安・円高方向」を見定めているFX投資家は全体の40%を超えた。自由回答欄を見ると、ポンド安方向に見ているFX投資家は英国の欧州連合(EU)離脱に関連する悪影響が出始めてくだろうと予想している向きが非常に多い。一方、「横ばい」を選択したFX投資家は、英国のEU離脱の手続きには時間が掛かるため、しばらくは大きな動きは見られないのではとの予想が目についた。また、ポンド高方向を睨んでいるFX投資家の自由回答欄は「EU離脱問題はそれほど尾を引かないと思う」など、英国の見通しについて比較的楽観的な声が目立った。

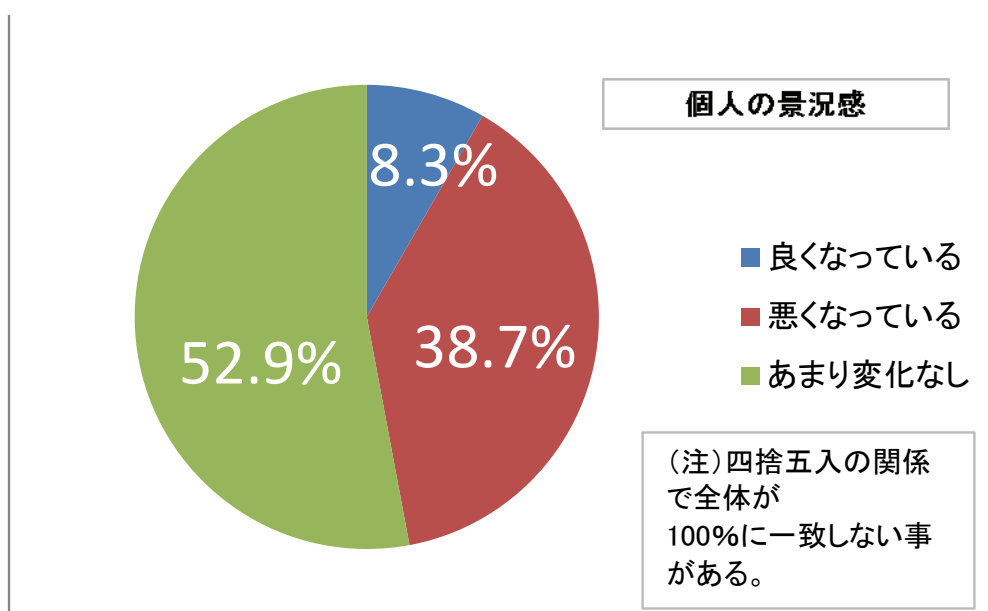


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2016 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

問7:あなた個人の「景況感」はいかがですか？(ひとつだけ)

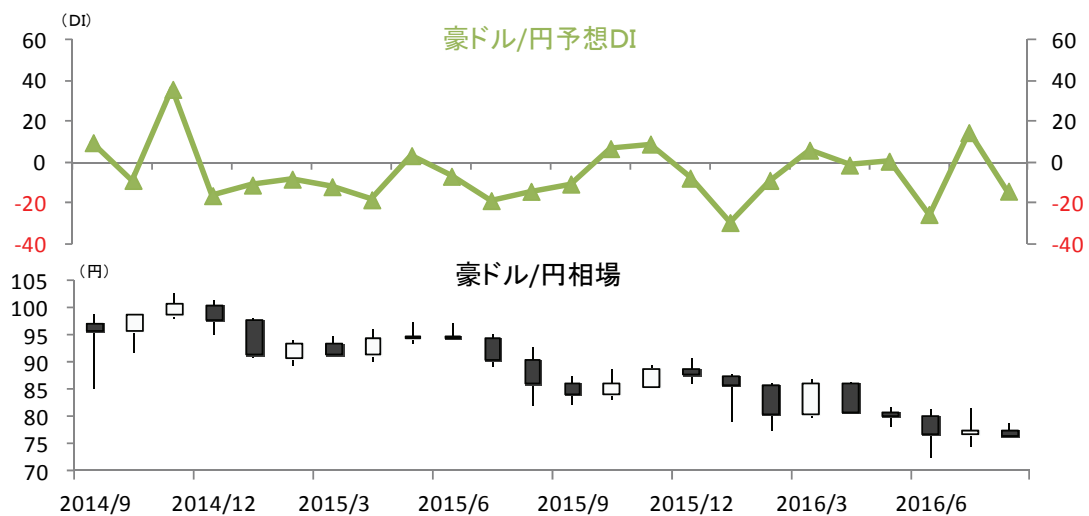
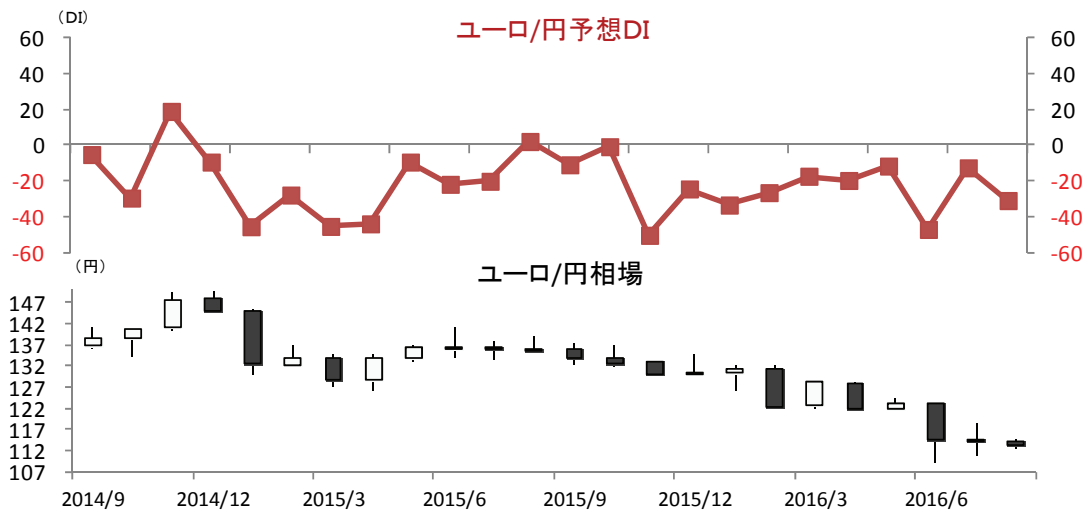
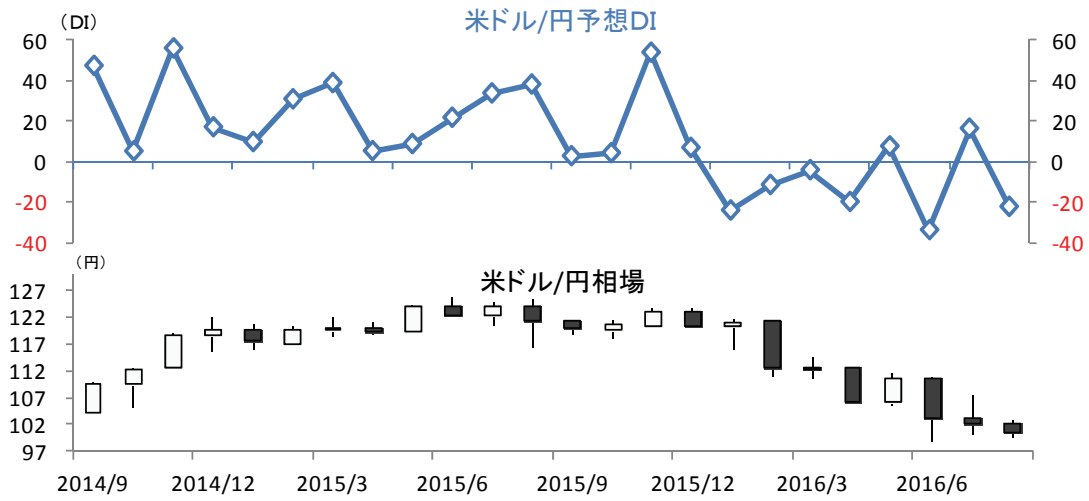
今回のもうひとつの特別質問項目として、「あなた個人の「景況感」はいかがですか？(ひとつだけ)」と尋ねたところ、「あまり変化なし」が52.9%と過半数に達した。続いて「悪くなっている」が38.7%、「良くなっている」は8.3%に留まった。この回答割合は第84回調査(2016年5月調査)とほぼ同じであり、FX投資家の景況感にほとんど変化がない。なお、この質問は、ほぼ3カ月に一度の割合で尋ねているが、このところ4回続けて「悪くなっている」が「良くなっている」を上回っている。FX投資家の景況感は低調で、上向く兆しが見えない状態が1年にもわたって続いている事が分かる。



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご承願いたします。

Copyright©2016 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

【付表: 主要3通貨ペア予想DIと足の推移】



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。Copyright©2016 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

【今後の調査実施計画及び公表方針】

本調査も第86回目となりました。調査開始から7年が経過し、データの蓄積が進んできました。今後については、毎月定点観測で実施する調査結果を基に、予想DIの時系列比較から見出せるFX投資家の相場観の変化やその傾向などのほか、中長期的な視点に基づいたFX投資家の投資スタイルの変化などの考察も進めて行きたいと考えています。

なお、毎月の本調査においては、公表扱いとしている質問項目及び回答結果の他に、「投資家の属性」、「取引頻度」、「取引規模」、「取引時間帯」、「投資選好」など、投資家実態を把握するために必要な各種の質問項目も設けて集計しています。それらの回答結果を用いた投資家の実態報告や属性別のクロス・セクション分析等については、当研究所が1年に1回、毎年年初以降に公表する「外為白書」で紹介する予定です。

【付表：主要3通貨ペア予想DIの推移】

		米ドル/円			ユーロ/円			豪ドル/円		
		米ドル高	米ドル安	DI	ユーロ高	ユーロ安	DI	豪ドル高	豪ドル安	DI
2014年	9月	64.8	17.6	47.2	28.0	33.2	-5.2	36.0	26.5	9.5
	10月	39.4	34.4	5.0	18.3	47.8	-29.5	27.1	36.1	-9.0
	11月	70.0	14.2	55.8	43.0	24.1	18.9	54.0	18.4	35.6
	12月	48.9	32.0	16.9	28.8	38.2	-9.4	26.9	43.4	-16.5
2015年	1月	39.3	29.7	9.6	15.1	60.6	-45.5	26.2	37.5	-11.3
	2月	46.8	16.1	30.7	19.7	47.5	-27.8	26.4	34.8	-8.4
	3月	52.3	13.6	38.7	15.2	60.5	-45.3	21.8	33.9	-12.1
	4月	31.4	26.3	5.1	15.1	59.0	-43.9	23.4	41.9	-18.5
	5月	29.1	20.5	8.6	31.0	40.4	-9.4	32.2	29.1	3.1
	6月	43.5	21.9	21.6	25.4	47.2	-21.8	24.3	31.3	-7.0
	7月	49.1	15.5	33.6	23.6	43.7	-20.1	22.8	41.7	-18.9
	8月	51.1	13.1	38.0	30.9	28.8	2.1	24.1	38.5	-14.4
	9月	37.1	34.5	2.6	24.9	35.8	-10.9	29.9	40.7	-10.8
	10月	30.3	26.2	4.1	30.3	31.1	-0.8	39.6	33.0	6.6
	11月	67.3	13.6	53.7	11.1	61.4	-50.3	34.4	25.6	8.8
	12月	43.8	37.1	6.7	19.7	44.1	-24.4	30.5	38.4	-7.9
2016年	1月	27.3	51.5	-24.2	19.2	52.6	-33.4	22.8	52.5	-29.7
	2月	34.7	46.3	-11.6	22.5	49.0	-26.5	32.3	41.3	-9.0
	3月	33.3	37.6	-4.3	24.8	42.1	-17.3	37.6	31.8	5.8
	4月	30.2	50.2	-20.0	24.2	43.9	-19.7	34.2	35.7	-1.5
	5月	40.8	33.4	7.4	22.6	38.2	-11.6	35.7	35.3	0.4
	6月	26.3	60.2	-33.9	20.0	67.0	-47.0	24.8	50.5	-25.7
	7月	48.3	32.1	16.2	32.1	44.7	-12.6	44.2	29.8	14.4
	8月	26.5	48.9	-22.4	17.2	48.1	-30.9	25.9	40.2	-14.3

(出所)外為どっとコム総合研究所

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2016 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com